

令和6年度 第4回 下阿多古小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月12日（水） 13時30分から16時00分まで
- 2 開催場所 下阿多古小学校 1階会議室
- 3 出席委員 出野 光雄、野澤 講一、大石 欽也、坪井 道男、新井 恵美子、
大乗 智恵、内山 達也、武田 あゆみ
- 4 欠席委員 鈴木 俊弥、市川 紀史
- 5 オブザーバー 大石 見無雄（青葉会会長）、
岡部 政三（青少年健全育成会会長、連合自治副会長）、
鈴木 矢々（下阿多古幼稚園園長）、梅林 正行（青谷副自治会長）
- 6 学 校 木下 栄二（校長）、藤岡 政哉（教頭）、沖 みどり（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 沖 みどり
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、野澤会長から内山委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- （1）学校関係者評価について
- （2）次年度の学校運営の基本方針について
- （3）学校運営協議会委員の自己評価について
- （4）夢育やらまいかCS加算分の報告

11 会議記録

司会の藤岡教頭から、委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校関係者評価について

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき学校関係者評価について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 学校評価の集計を見て、非常によい結果が出ていると思う。これからも下阿多古の自然を生かした教育を、引き続きお願いしたい。（出野委員）
- ・ 「早寝・早起き・朝ごはん」の子供のたちの評価において、学校側でも生活習慣の振り返りや指導が必要だと考えているとのこと。来年度の学校運営協議会での熟議として取り上げ、習慣化させるための方法を考えてはどうかと思う。（武田委員）

- ・ 子供たちの評価項目に「先生の授業はよく分かる」「先生に相談している」が「そう思わない」と感じる子供が少なからずいる。それに対する把握や補助、支援などは行っているのか。(内山委員)
- ➔ 児童数が少ないため、ある程度把握はできている。全職員で共有し、個々にあった指導や支援を、日々考えながら実践している。(教頭)

(2) 次年度の学校運営の基本方針について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき次年度の学校運営の基本方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 家庭でのしつけ等も大事である。それ以上の問題に対処するために、不確実性の世の中で生き抜く力を学校側がどう育てていくかが課題であると思う。(内山委員)
- ・ 家庭環境がすごいスピードで多様化しており、親の置かれている環境も大きく変化している。若い世代の親たちの子育てに対する大変さを理解し、地域や学校が目配り気配りをして支援していくことが大切だと想う。(大葉委員)
- ・ 学校教育の在り方において、今までの価値観や既成概念の変革期がきている。社会多様性の中で、学校による新しいランドデザインに先生方の変革が覗える。(新井委員)
- ・ 基本方針を聞かせてもらい、学校側の努力が覗える。小学生はまだ家庭内での教育が重要であると思う。先生方だけの努力に頼るのではなく、積極的に家庭の協力を得ることが不可欠ではないか。(岡部オブザーバー)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(3) 学校運営協議会委員の自己評価について

議長の指示により、会長から、別紙資料に基づき学校運営協議会委員の自己評価について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 教育目標であるふるさとを愛する子供の育成のため、従来から続けてきた行事とは別に、各種人材の提案・提供やサポーター制度等の実行可能な活動を考えることができた。(野澤委員)
- ・ この1年で、地域と学校の距離を縮められたのではないかと思う。ただ、「コミュニティ・スクール」が周知されていないため、来年度はPTAや保護者、家庭にも言葉かけを行っていきたい。(武田委員)
- ・ ランドデザインに記されている持続可能な社会の担い手を育成するためにも、委員個々が主体的に情報を取り入れ、地域を巻き込んで学校を支援していくことが必要である。(内山委員)

(4) 夢育やらまいかC S加算分の報告

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき夢育やらまいかC S加算分の報告について説明があり、全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

司会から、来年度の学校運営協議会は、令和7年4月下旬から5月上旬にかけてを予定している旨の報告があった。